茨城の土木遺産

第五回

水戸市低区配水塔

近代水道に懸ける市民の思いが込められた美しい配水塔

公益社団法人土木学会関東支部
茨城会理事兼調査研究部会長
澤畠 守夫

■近代水道への道のり

水戸の城下町は初代藩主徳川頼房（よりふさ）によって一六二五年から本格的に整備され、台地上に展開する上町市街地と桜川沿いの低湿地を埋め立て造成した下町（現在の下市）市街地から構成されている。

上町は深井戸と湧水により比較的良質な飲料水が確保できたが、下町では浅井戸のため水質が悪く問題となっていた。こうした状況を憂慮した二代藩主光圀（みつくに）が、笠原不動に水源を設置し、千波湖南岸を岩樋や木樋を用いた暗渠（あんきょ）による延長約一〇・八キロメートルの笠原水道を開設した。我が国十八番目の水道である。

水戸市は一八八九（明治二十三）年に市制が施行され、人口が二万人を超え、水量の不足や水質の悪化、火災の頻発化が深刻になってきた。そのため、新たな水道の敷設をめざす動きが大きくなったが、日露戦争の開戦などの問題もあり、上水問題はなかなか進展しなかった。

その後、一九三〇（昭和五）年に至り、内務省から水戸市へ水道の認可が下り、ようやく近代水道の建設が動き出すことになった。給水人口八万人の水道計画は、渡里村芦山（わたりむらあしやま）に浄水場を設置し、約二〇メートルの高低差がある上町と下市を「高区」と「低区」に分けて二系統の配水施設を設けるもので、わずか二年の工事期間でこの大工事を竣工させている。

■美しい低区配水塔

水戸市北見町（旧北三の丸）の台地上に下市に水道を供給するために「低区配水塔」（写真1）が一九三二（昭和七）年に竣工した。この配水塔（浄水場から送られてきた水を一旦貯留し、一定の圧力を加え、地下配水管を通じて各家庭に水道水を配る施設）は、高さ二一・六メートル、長径一一・二メートルの円筒形の鉄筋コンクリート造りの塔である。配水塔の外壁にはレリーフが施され、一階入口にはゴシック風の装飾（写真2）が施されるなど、待ち望んでいた近代水道に懸ける水戸市民の思いが込められているかのように美しい。

塔の中央部にバルコニー風の回廊がせり出し、それを境に上部二ヵ所に消防ホースのノズルをシンボライズしたと思われるレリーフが彫られており、当時、水道が飲料だけではなく消防用水としての役割を担っていたことを表している。中の構

◀上（写真1）水戸市低区配水塔正面（撮影：和気徹也氏）
下（写真2）配水塔玄関上部（撮影：和気徹也氏）

造は、一階に事務室があり、中央の緩やかな螺旋（らせん）階段を上って行くと、鋼製水槽（写真3）の底面が塔をふさぐように広がっている。鋼製水槽の特徴の一つとして接合部が全てリベット止めとなっている。

また、敷地内には配水塔と調和したデザインの量水棟や清らかな上水が湧き出る噴水（写真4）が設置されており、上水による衛生的で豊かな生活の幕開けを喜んでいたように思える（現在、噴水の敷地は公園の植え込みとなっている）。

この配水塔の設計は、津（三重県）をはじめ熱海（静岡県）、真鶴（神奈川県）などで水道建設を行い、水戸市技師に着任した後藤鶴松氏である。市の水道建設に掲げた理念は「衛生的かつ美観的施設」の建設であり、県庁などが立地する三の丸と格好の場所での建設とあって美意識を最大に発揮したのかもしれない。氏は起工式の当日生まれた女子に「塔美子」と言う名前を付けたとのことである。

また、水戸市には建設当時の手書きの設計図が残されており、これを見ると設計者後藤氏の「建設理念」を懸命に実現させようとする思いが伝わってくるように感じられる（図1、2）。

■廃止された配水塔の活用

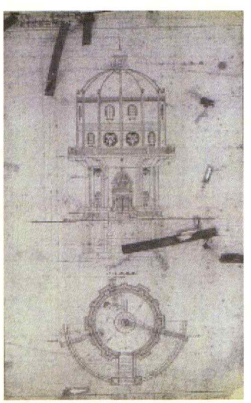
配水塔は一九八五（昭和六十）年近代水道百選に選ばれ、一九九六（平成八）年には国の有形文化財に登録された。同時期に建設された配水塔が廃止されていく中で、下市を潤し続けてきた低区配水塔も一九九九（平成十一）年をもって六十七年間の水道施設としての役割を終えた。

その後は水戸市の近代水道の象徴として保存され、建設当時の淡い水色と肌色のコントラストが映える外観に補修されている。

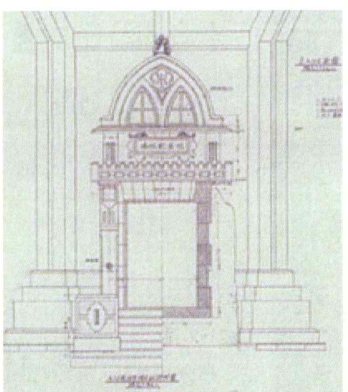
この配水塔は、上水と消防問題に苦しんだ水戸の歴史と近代水道の素晴らしさを今に伝える貴重な土木遺産である。水戸市は周辺を含め公園化することにより市民がふれあえる環境を整備しており、行政と市民とで大切に保全されている遺産である。

（写真3）配水塔内部、鋼製水槽底面（撮影：和気徹也氏）

（写真4）敷地内に設置されていた噴水（「水戸市水道工事写真帳（昭和7年5月）」水戸市水道部より）



（図1）建設当時の設計図1（手書きの配水塔正面立面図、平面図）（水戸市水道部所蔵）



（図2）建設当時の設計図2（手書きの配水塔玄関詳細図）（水戸市水道部所蔵）

■ 諸元

・所在地
水戸市北見町（旧北三の丸）

・構造等
鋼製水槽内蔵鉄筋コンクリート製配水塔

・竣工年
1932（昭和7）年

・備　考
国登録有形文化財
近代水道100選
土木学会選奨土木遺産

（参考文献）
（公社）土木学会：「土木コレクションHANDS+EYES」2014（平成26）年
水戸市水道部：「水戸の水道史第一巻」1980（昭和55）年
茨城県教育委員会：（2007）「茨城県近代化遺産」2007（平成19）年